

続々々・ベクトルの回転

クロメル@物理のかぎプロジェクト

2010-10-24

特定の向きを向いた剛体が、オイラー角と呼ばれる三つの回転を行った後の状態は、ある一つの軸まわりの回転で、同じ向きを向くことができます。その回転軸と回転の大きさを求めてみよう。というのが、今回の記事です。[ベクトルの回転](#)、[統ベクトルの回転](#)、[続々ベクトルの回転](#)の続編です。

オイラー角

オイラー角は、次の三つの行列の積で表されます。この三回の回転で、どんな向きでも向くことができます。詳しくは、[剛体のオイラー角でのハミルトニアン](#) の慣性主軸の所をご覧ください。

$$\begin{aligned}
 K &= R_{z''}(\psi)R_{y'}(\theta)R_z(\phi) \\
 &= \begin{pmatrix} \cos \psi & \sin \psi & 0 \\ -\sin \psi & \cos \psi & 0 \\ 0 & 0 & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} \cos \theta & 0 & -\sin \theta \\ 0 & 1 & 0 \\ \sin \theta & 0 & \cos \theta \end{pmatrix} \begin{pmatrix} \cos \phi & \sin \phi & 0 \\ -\sin \phi & \cos \phi & 0 \\ 0 & 0 & 1 \end{pmatrix} \\
 &= \begin{pmatrix} \cos \theta \cos \phi \cos \psi - \sin \phi \sin \psi & \cos \theta \sin \phi \cos \psi + \cos \phi \sin \psi & -\sin \theta \cos \psi \\ -\cos \theta \cos \phi \sin \psi - \sin \phi \cos \psi & -\cos \theta \sin \phi \sin \psi + \cos \phi \cos \psi & \sin \theta \sin \psi \\ \sin \theta \cos \phi & \sin \theta \sin \phi & \cos \theta \end{pmatrix} \quad (1)
 \end{aligned}$$

これと、今までこのシリーズで出てきた原点を通る軸周りの任意の大きさ α の回転行列、

$$\begin{aligned}
 K &= \mathbf{nn} + \cos \alpha(I - \mathbf{nn}) + \sin \alpha \begin{pmatrix} 0 & -n & m \\ n & 0 & -l \\ -m & l & 0 \end{pmatrix} \\
 &= \begin{pmatrix} l^2 + \cos \alpha(m^2 + n^2) & lm(1 - \cos \alpha) - n \sin \alpha & ln(1 - \cos \alpha) + m \sin \alpha \\ lm(1 - \cos \alpha) + n \sin \alpha & m^2 + \cos \alpha(n^2 + l^2) & mn(1 - \cos \alpha) - l \sin \alpha \\ ln(1 - \cos \alpha) - m \sin \alpha & mn(1 - \cos \alpha) + l \sin \alpha & n^2 + \cos \alpha(l^2 + m^2) \end{pmatrix} \quad (2)
 \end{aligned}$$

これらが等しいとするのです。ここで、式 (1),(2) のトレース(対角和)を取ります。 $l^2 + m^2 + n^2 = 1$ に注意すると、

$$\text{tr}K = 1 + 2 \cos \alpha = (1 + \cos \theta)(1 + \cos(\phi + \psi)) - 1 \quad (3)$$

よって、

$$\begin{aligned}\cos \alpha &= \frac{1}{2}(1 + \cos \theta)(1 + \cos(\phi + \psi)) - 1 \\ &= 2 \cos^2 \left(\frac{\theta}{2}\right) \cos^2 \frac{\phi + \psi}{2} - 1\end{aligned}\quad (4)$$

となります。ただし、恒等式 $1 + \cos x = 2 \cos^2 \frac{x}{2}$ を用いました。 l, m, n を求める為に対称成分の差を取ります。

$$\begin{aligned}K_{32} - K_{23} &= 2l \sin \alpha \\ &= \sin \theta (\sin \phi - \sin \psi)\end{aligned}\quad (5)$$

よって、

$$l = \frac{1}{2 \sin \alpha} \sin \theta (\sin \phi - \sin \psi) \quad (6)$$

同様に、 m, n についても、

$$m = \frac{-1}{2 \sin \alpha} \sin \theta (\cos \phi + \cos \psi) \quad (7)$$

$$n = \frac{-1}{2 \sin \alpha} (1 + \cos \theta) \sin(\phi + \psi) \quad (8)$$

と求められます。 $0 \leq \theta \leq \pi, -\pi \leq \phi, \psi \leq \pi$ ですから、

ここで、 $\sin \alpha = \sqrt{1 - \cos^2 \alpha} \geq 0$ を用いて、

$$\begin{aligned}\sin \alpha &= \sqrt{1 - \cos^2 \alpha} \\ &= \sqrt{-4 \cos^4 \frac{\theta}{2} \cos^4 \frac{\phi + \psi}{2} + 4 \cos^2 \frac{\theta}{2} \cos^2 \frac{\phi + \psi}{2}} \\ &= \begin{cases} 2 \cos \frac{\theta}{2} \cos \frac{\phi + \psi}{2} \sqrt{1 - \cos^2 \frac{\theta}{2} \cos^2 \frac{\phi + \psi}{2}} \geq 0 & (\text{when } -\pi \leq \phi + \psi \leq \pi) \\ -2 \cos \frac{\theta}{2} \cos \frac{\phi + \psi}{2} \sqrt{1 - \cos^2 \frac{\theta}{2} \cos^2 \frac{\phi + \psi}{2}} \geq 0 & (\text{when } -2\pi \leq \phi + \psi \leq -\pi, \pi \leq \phi + \psi \leq 2\pi) \end{cases}\end{aligned}\quad (9)$$

と、計算できます。そして、三角関数の和積の公式と半角の公式^{*1} を用いてやると、

$$\begin{aligned}l &= \frac{2 \sin \frac{\theta}{2} \cos \frac{\theta}{2} \times 2 \sin \frac{\phi - \psi}{2} \cos \frac{\phi + \psi}{2}}{\pm 4 \cos \frac{\theta}{2} \cos \frac{\phi + \psi}{2} \sqrt{1 - \cos^2 \frac{\theta}{2} \cos^2 \frac{\phi + \psi}{2}}} \\ &= \frac{\pm \sin \frac{\theta}{2} \sin \frac{\phi - \psi}{2}}{\sqrt{1 - \cos^2 \frac{\theta}{2} \cos^2 \frac{\phi + \psi}{2}}}\end{aligned}\quad (10)$$

^{*1} 一応書いておきます。 $\sin A - \sin B = 2 \cos \frac{A+B}{2} \sin \frac{A-B}{2}$ と、 $\cos A + \cos B = 2 \cos \frac{A+B}{2} \cos \frac{A-B}{2}$ と、
 $\sin \theta = 2 \sin \frac{\theta}{2} \cos \frac{\theta}{2}$ を用いました。

$$m = \frac{\mp \sin \frac{\theta}{2} \cos \frac{\phi - \psi}{2}}{\sqrt{1 - \cos^2 \frac{\theta}{2} \cos^2 \frac{\phi + \psi}{2}}} \quad (11)$$

$$n = \frac{\mp \cos \frac{\theta}{2} \sin \frac{\phi + \psi}{2}}{\sqrt{1 - \cos^2 \frac{\theta}{2} \cos^2 \frac{\phi + \psi}{2}}} \quad (12)$$

となり,(ただし,複号同順で,式(9)の符号と一致させます.)それなりにきれいな形になりました.

以上,回転の公式の対応の検証でした.今日は,ここまで.